

1 自己評価及び外部評価票

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 2070501065 | | |
| 法人名 | 特定非営利活動法人 心 | | |
| 事業所名 | グループホーム こころ | | |
| 所在地 | 飯田市松尾上溝6301 | | |
| 自己評価作成日 | 平成22年1月8日 | 評価結果市町村受理日 | 平成22年5月7日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| <p>住宅を改築したグループホームで、外観はもとより、内装など普通の自宅となんら変わりなく、畳の居室であったり、ベットの居室や自宅の物品を配置するなど、利用者の方の生活層を重視した環境を整えている。入居者からも「あんちゃ・おねいちゃん」など親しみある呼び方で互いを呼び合い、その人らしさの生活観であったり個性を出せたりしている。</p> |
|--|

事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2070501065&SCD=320 |
|----------|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| <p>このグループホームは飯田市中心部から離れた町中にある普通の住宅で、利用者と職員が普通の生活をしている、といった家族的な雰囲気に満ちている。その家族の中に入っていくと、そこには利用者同士のちょっとした言い合いがあったり、悩みがあったりするけれども、手作りのおやつを食べて、笑って、一緒に生きている、といった実感がわいてくる。これも、経営者・管理者が確固とした理念を持って、職員と一体となって利用者と向き合っているからだと考えられる。 また、この地域に根ざそうと、地域との関わりを大切にしているグループホームである。特に、地域に住んでいる退職職員を協力員として身近なところから取り組もうとしている姿勢は、さらに大きな輪になって広がっていきと思われる。</p> |
|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|---------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 福祉総合評価機構 長野県事務所 |
| 所在地 | 飯田市上郷別府3307-5 |
| 訪問調査日 | 平成22年2月23日 |

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

| ユニット名(こころ) | | | |
|------------|---|----|--|
| 項目 | 取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと) | 項目 | 取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと) |
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25) | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (参考項目: 9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38) | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38) | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37) | 66 | 職員は、生き活きと働けている (11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49) | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31) | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28) | | |

| サービスの実績に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します | | | |
|--|---|----|---|
| ユニット名() | | | |
| 項目 | 取り組みの成果 (該当する箇所を印で囲むこと) | 項目 | 取り組みの成果 (該当する箇所を印で囲むこと) |
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25) | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38) | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38) | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37) | 66 | 職員は、生き活きと働けている (11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49) | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31) | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |

自己評価および外部評価票

「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。〔セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。〕

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------|-----|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | 理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 職員会議などで職員全員で話し合い、確認し、具体的なケアについて意思統一している。 | 平成20年度に見直し、「共に笑い、共に楽しみ、共に悲しみ、共に生きる」という簡潔で覚えやすい理念と、その下に4つの基本方針を掲げ、職員と共有し、実践してきている。 | |
| 2 | (2) | 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域のお祭り・イベントなど利用者の方とともに積極的に参加している。 | 自治会に加入して、地域の行事に参加したり、地域の方々の協力を得たりしている。また、近くに住んでいる退職職員が協力員として、地域のつながりの手助けとなっている。 | |
| 3 | | 事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地元中学生、または短大生の受け入れを積極的に行っている。 | | |
| 4 | (3) | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 職員会議に参加していただくことで、利用者の方の状態・状況などを把握していただいたり、また、意見を取り入れている。 | 職員会議の折、2か月に1回開催している。利用者の状況を報告したり、サービスの向上について話し合っている。 | 運営推進会議のメンバーがグループホーム以外からは、民生委員・包括センターの2名であるので、利用者家族や地域の方々の参加を呼びかけ、会議の在り方を工夫することが望まれる。 |
| 5 | (4) | 市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市福祉課職員と介護保険などの相談に乗っていただいたりしている。 | 訪問介護の事業を新しく始めるなど、市の担当者との連絡を積極的に行い、相談に乗っていただいている。 | |
| 6 | (5) | 身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 職員会議などを通じて、職員全員に理解をしてもらい、拘束のない介護を積極的に努めている。 | 一人で外出するような場面では、一緒について行って声かけしたり、車で自宅に送って気のすむまで寄るなど支援したりして、鍵をかけないケアを行っている。 | |
| 7 | | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 市の実地指導などを踏まえ、職員会議などで話し合いを持ったりし、理解の浸透を図っている。 | | |

グループホーム こころ

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 職員に対する勉強会を開いていきたい。また、成年後見制度の研修会があれば参加できるように計画をしたい。 | | |
| 9 | | 契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入所前から時間をとって丁寧に説明をしている。また、重度化や看取り、緊急時についての対応方針など医療連携体制などについて詳しく説明し、同意を得ている。 | | |
| 10 | (6) | 運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご家族には手紙や訪問時など、何でも言ってもらえるような雰囲気に留意している。 | 家族の訪問時には何でも話しやすい雰囲気 に努め、家族への報告には「こころ通信」を通して知らせたり、いつも話題にしたりできるように心がけている。 | |
| 11 | (7) | 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員会議などを通じて意見を出し合い、改善しなければならぬ所はすぐ改善している。 | 日々の会話の中で気づいたことを話したり、共通の話題を伝えたりしている。また、月1回の職員会議で意見を出し合えるように努めている。 | |
| 12 | | 就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 今後、キャリアパスなどを導入し自己研鑽を行っていく。 | | |
| 13 | | 職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 事業所外の研修を取り込み、その研修について会議などで報告を行い、介護のスキルアップをしている。 | | |
| 14 | | 同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 圏域の連絡会などを通じて、他のグループホーム職員との話し合いを持ち、情報交換などを行っている。 | | |

グループホーム ころ

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所前には約1週間ほど自宅へ通い、生活歴など情報を集めるなど、入所して不安がないように努めている。 | | |
| 16 | | 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 事前面談をしたりし、家族の意向などを聴取している。 | | |
| 17 | | 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人の要望はもとより、家族の意見などを聞き柔軟な対応をし、しかるべきサービスが出来ている。 | | |
| 18 | | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 本人の思い、苦しみ、不安、喜びなどを知ることにも努め、暮らしの中で分かち合い、共に支えあえる関係作りに留意している。 | | |
| 19 | | 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族と同じ思いで寄り添いながら、本人を支えていることを家族にも伝えている。 | | |
| 20 | (8) | 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みのある美容院・病院などを利用するなど生活習慣を尊重している。 | 飯田市内の利用者がほとんどである。利用者それぞれで、自宅に寄って庭の掃除をしたり、友人となじみの美容院で会ったりできるように支援している。 | |
| 21 | | 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | お茶や食事などの時間は職員と一緒に飲食し、多くの会話が成り立つよう心がけ、また、入居者同士が円満に行くよう努めている。 | | |

グループホーム ころ

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | 関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 家族との連絡を取りながら、本人に会うサービスを相談したりしている。 | | |
| その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居者の希望・意向など耳を傾け、また、意思の疎通が出来ない方でも時間をかけ思いを聞くようにしている。 | センター方式の「心身の状況」「焦点情報」などを活用して、利用者一人ひとりの思いや意向などの把握に努めている。 | |
| 24 | | これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人自身からや、家族からの情報収集により把握している。 | | |
| 25 | | 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 本人が興味持っていることや、今出来る事に注目し、その人全体の把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 職員全員で情報を交換し、職員会議などで話し合い、その人にあったケアプランを作成している。 | モニタリングシートを活用して、利用者一人ひとりの状況に合った介護計画を具体的に作成するよう努めている。 | |
| 27 | | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別ファイルや日誌などを用意し日々の様子を記入している。体調不慮などの際は食事や水分等を記入し申し送りなどに活かしている。 | | |
| 28 | | 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 必要と判断されるものであれば柔軟な対応をとります。 | | |

グループホーム こころ

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | <p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p> | <p>入居者が安全に地域で暮らせるよう、民生委員などと意見交換できる場をもうけている。</p> | | |
| 30 | (11) | <p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p> | <p>本人や家族が希望としている医師の受診や往診としている。受診や通院は家族か、若しくは家族の希望に添って職員が代行している。</p> | <p>「床ずれができています」といったその時、その場での対応を大事にして、家族との連絡を取って職員が代行して近くの病院で受診するなど、医師とも連携して支援している。</p> | |
| 31 | | <p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p> | <p>パート看護職員を配置し、健康管理の支援または薬の管理などを行えるようにしている。また、日々の記録を通じ確実な連携を取れるようにしている。</p> | | |
| 32 | | <p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p> | <p>入院によるダメージを極力防ぐ為に、医師と綿密な話し合いをし、事業所内での対応可能な段階で早期退院が出来るよう話が出来ている。</p> | | |
| 33 | (12) | <p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p> | <p>個々の家族との話し合いは出来ており、その対応についても職員間でも共有できている。</p> | <p>利用者の出入りが少なく、徐々に高齢化し、重度化してきている。ターミナルケアを希望する利用者もでてきているので、対応についてさらに検討していきたい。</p> | |
| 34 | | <p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p> | <p>職員会議や、避難訓練時などで急変時や事故発生時の初期対応の仕方などの練習を行っている。</p> | | |
| 35 | (13) | <p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p> | <p>連絡網を使っての訓練、消火器の使用の仕方などの訓練を年2回以上行っている。</p> | <p>年2回訓練を行い、災害に備えている。特に、夜間、地域の協力員の協力を得て、連絡網を使った訓練を行ってきている。</p> | <p>消防署と連携して、施設・設備面での問題や、避難経路や避難方法での問題などについて検討し、見直すことが望まれる。</p> |

グループホーム こころ

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | 一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしないよう日々気をつけている。 | 利用者一人ひとりの状況や、その個性に合わせて対応し、また、利用者同士の関係を大事にした言葉かけをしていた。 | |
| 37 | | 利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 衣類など、本人が着たいもの、欲しいものを選んでいただけるよう働きかけをしている。 | | |
| 38 | | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | お茶・食事・入浴など都度声かけを行い、希望に添うようにしている。強制はしない。 | | |
| 39 | | 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 毎日、着る服を自分で選んでいただいたり、個別に必要とされる方は美容室の利用が出来るようにしている。 | | |
| 40 | (15) | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者と一緒に採ってきた野菜を調理したりし、食事を一日の大切な活動としている。 | こちらでは職員に食べさせてもらいながら、あちらではあれこれ言い合いながら、それぞれが食事を楽しんでいた。また、職員手作りのおやつをおいしく食べていた。 | |
| 41 | | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一人ひとり口にあった形状での提供や、必要に応じて食事摂取量や水分摂取量の把握に努めている。 | | |
| 42 | | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 一人ひとりにあった口腔ケアの支援を行っている。 | | |

グループホーム ころ

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 日中のリハビリパンツの使用をなくし自宅と同様の肌着を着用していただいている。個々の時間で声がけをしトイレ誘導を行っている。 | 利用者一人ひとりのチェックをしながら、その場、その時に応じた声かけをし、トイレ誘導を行っていた。 | |
| 44 | | 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 起床時の冷水摂取などを促しているが、薬の服用で管理している。 | | |
| 45 | (17) | 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 週3回を目安に入りたい時に入れるよう支援をしている。ただ強制はしない。 | 利用者一人ひとりの状況に合わせ、職員2人がかりで入浴支援をしたり、入浴ぎらいな利用者には無理強いをしないように入浴を促したりしている。 | |
| 46 | | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 居室で寝れない方は居間等を活用したり、その人にあった場所や時間で休んでいただいている。 | | |
| 47 | | 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個別で服用している薬のリストを作っている。職員が閲覧できるようになっており、職員全員が理解を深めている。 | | |
| 48 | | 役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 個々の趣味にあった貼り絵や草履作りなどが出来るように支援している。 | | |
| 49 | (18) | 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 個々の要望があればその都度外出をしている。また、花見、果物狩り、温泉、カラオケ、焼肉など季節に合わせた外出も行っている。 | 季節や月ごとになかった外出をみんなで計画したり、利用者の希望によって散歩や買い物をしたりして、気晴らしができるよう支援している。 | |

グループホーム ころ

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | <p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p> | <p>お金を所持し、タクシーなどで美容院へ行ったり、買い物へ出かけたり出来るように支援している。</p> | | |
| 51 | | <p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p> | <p>家族などに電話をかけたい方がいれば、その都度電話が出来るようにしている。</p> | | |
| 52 | (19) | <p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | <p>季節の花などを飾ったり、デッキなどに花を植えたりして楽しんでいる。また、畑で野菜の栽培をしたりしている。</p> | <p>狭いながらも、食道兼居間には畳敷きのスペースがあり炬燵があったり、廊下にはソファがあったりして、利用者がくつろげれるようになっている。</p> | |
| 53 | | <p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p> | <p>廊下にソファを置いたりして、気の合う者同士話出来るスペースを作っている。</p> | | |
| 54 | (20) | <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p> | <p>その人に合わせ、畳の部屋であったり、ベットであったり個々の生活暦を尊重している。また、馴染みのタンスや、仏壇であったり自宅と変わらない空間を造っている。</p> | <p>利用者一人ひとりの好みや希望に合わせ、家具や道具や電化製品が置かれてあり、さっぱりした居室になっている。</p> | |
| 55 | | <p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p> | <p>本人のレベルを維持していくため、歩行器など個人の状況に合わせて取り入れている。</p> | | |